

気候情報

2006年11月の日本の天候

気温高い（全国）、降水量多い（北・西日本）、
北海道などで竜巻による被害発生

11月の天気概況

上旬は前半を中心に全国的に晴れて暖かい日が多かった。特に北日本では、低気圧や前線に向かって南風が吹き込み顕著な高温となった。また、7日には発達しながら通過した低気圧により北日本を中心に風雨が強く、北海道佐呂間町では竜巻による大きな被害が発生した。中旬以降は、北日本では、一時的な冬型の気圧配置になり北海道を中心に雪の日もあったが、強い寒気の南下はなく気温は平年並から高く経過した。東日本から南西諸島にかけては、天気は周期的に変わったが、低気圧通過の際には暖かく湿った気流の影響でまとまった降水となり、26日は四国や紀伊半島の一部で記録的な大雨となった。また、低気圧通過後も寒気の流れ込みはほとんどなく、西日本や南西諸島は下旬に顕著な高温となった。

上旬：東北地方から西日本にかけては、高気圧に覆われ晴れて暖かい日が多かった。北海道では、カムチャッカ付近のプロッキング高気圧の影響で南風が入りやすく、顕著な高温となった。また、7日には低気圧が発達しながら通過し、北海道佐呂間町では竜巻による大きな被害が発生した。一方、南西諸島では、前半は前線の影響で曇りの日が多かったが、後半は高気圧に覆われて晴れの日が続いた。**旬平均気温**は、全国的に高く、北日本ではかなり高かった。**旬降水量**は、北日本日本海側でかなり多く、北日本太平洋側と西日本日本海側は平年並、東日本と西日本太平洋側、南西諸島では少なかった。**旬間日照時間**は、北日本太平洋側と南西諸島で平年並のほかは多く、東日本日本海側と西日本太平洋側ではかなり多かった。

中旬：天気は周期的に変わった。11日に低気圧が発達しながら通過し、風雨が強まった。12日は一時的に冬型の気圧配置が強まり札幌などで初雪となった。その後、17日頃までは、北日本を中心に寒気が流れ込み、気温は平年並となった。18日には前線の影響で南西諸島の一部で大雨となり、沖縄県名護市では竜巻の被害が発生した。19日から20日にかけては低気圧が南岸を発達しながら通過したため、関東南部では大雨となった。**旬平均気温**は、全国的に平年並だった。**旬降水量**は、全国的に多く、北日本と東日本日本海側ではかなり多かった。**旬間日照時間**は、北日本日本海側と東・西日本太平洋側、南西諸島で平年並、北日本太平洋側と西日本日本海側で少なく、東日本日本海側でかなり少なかった。

下旬：22日から24日にかけては北日本では冬型の気圧配置となり、北海道では今シーズン初めての本格的

な降雪となった。一方、本州南岸には前線が停滞しやすく、低気圧が周期的に通過した。このため、東日本太平洋側と西日本では曇りや雨の日が多く、26日には暖湿流の影響で西日本の南岸で大雨となり、室戸岬では1時間降水量の最大値を更新した。**旬平均気温**は、全国的に高く、西日本と南西諸島ではかなり高かった。**旬降水量**は、北・東日本太平洋側と西日本、南西諸島で多く、北日本日本海側で平年並、東日本日本海側では少なかった。**旬間日照時間**は、東日本日本海側と北日本、南西諸島で平年並、東日本太平洋側で少なく、西日本ではかなり少なかった。

11月の気候統計

月平均気温：全国的に高かった。特に北海道と九州では平年を2℃以上上回ったところがあった。

月降水量：北日本から東日本にかけての太平洋側、および西日本では多く、北日本日本海側ではかなり多かった。北海道から九州にかけての所々で平年の170%以上となった。一方、東日本日本海側と南西諸島では平年並だった。

月間日照時間：西日本日本海側では少なかったが、そのほかの地域では平年並だった。

降雪・積雪：降雪の深さ（月合計）、月最深積雪ともに、平年並か少なかった。

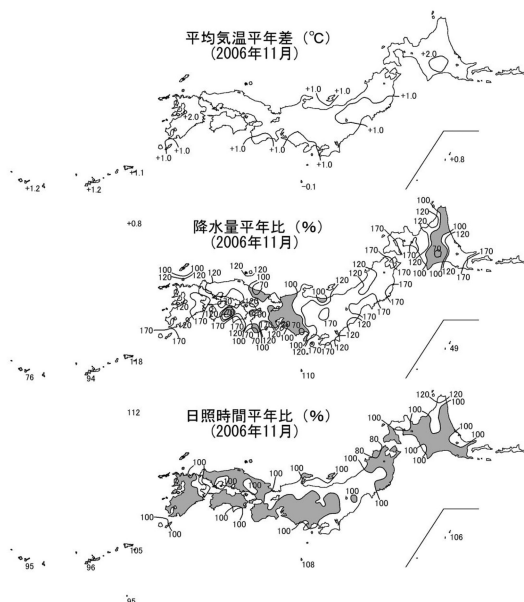
（気象庁観測部統計室）

11月の記録（1位更新のみ）

・月降水量多い方から（mm）

江差 227.0

2006年11月の平年差（比）図



注) 陰影の部分は、平年より低い（少ない）地域を示す。